



産業用ヒートポンプの飛躍の年に

鈴木 聡 一般社団法人 日本エレクトロヒートセンター 副会長

グローバル化の進んだ今日において、地球規模で如何に持続的な社会を構成するかが大きな取組テーマとなって来ています。地球環境に対する長期ビジョンは既に2050年という将来を展望しておりますし、国際社会では2030年までの具体的な取り組みとして「SDGs（持続可能な開発目標）」を掲げ、各企業もテーマとして示された17分野において、自社の事業にて実現に資する活動を展開しているところ

です。
エレクトロヒートの普及に携わる私たちにとって、SDGsにおける「エネルギー（目標7：エネルギーをみんなに、そしてクリーンに）」、「気候変動（目標13：気候変動に具体的な対策を）」の実現は、まさに使命であり最も当センターの貢献できる分野です。

昨年エレクトロヒートシンポジウムの基調講演においても、2020年以降のCO₂削減目標を達成するには、再エネを前提としつつ、「如何に電化を推し進め」、省エネをしていくことが重要であるかについて多くの講演者が訴えておられました。そのなかでも経産省の梅北室長よりご発表ありましたように、私たちがスコープとする「製造（産業）分野」での電化率はわずか2割であり、熱・化石燃料利用についてはエレクトロヒートの各加熱分野での技術的な課題を解決し、電化をまだまだ促進させる必要があります。

エレクトロヒートの重要な技術分野のひとつであるヒートポンプにおいて、日本は世界をリードする技術を有しており、具体的にはCOP21（国連気候変動枠組条約第21回締結国会議）“パリ協定”で定められた年度目標の実現に向け、新たな技術革新や応用技術の開発による「加熱、乾燥分野」への適用範囲拡大を推し進め、産業分野の「電化」によるCO₂削減を推進する必要があります。

更にヒートポンプ技術は、燃焼・加熱無しで熱の「リサイクル」が実現できる唯一の電化技術であり、工場や変圧器・地下鉄の廃熱、また下水や河川等の未利用熱の効率的な利用など「廃熱利用」という新しい省エネ分野を切り拓く技術としても注目されています。

家電リサイクルの取組みに見ますように他国が使用済家電品の埋立てや廃棄を志向する中で日本は20年も前から「リサイクル」による循環社会を形成してきました。これと同じく「熱」も「捨ててしまうもの」から「リサイクル」して活用するという新しい循環型の提案を、当センターが中心となり普及に努めているところです。お蔭様で当センターの主催する「廃熱利用」の講演に非常に多くの注目が集まっていることは大変喜ばしいことです。

日本はこの5月より新元号「令和」に改元し、新しい時代が始まろうとしています。

エレクトロヒートも新しい時代に向け、従来の個々の機器の省エネから、工場或いは地域を含めた新しい循環型の省エネへと次なる発展を目指し、これが当センターのコアコンピタンスとなるよう、今後とも世界に先駆けて発信して参りたいと存じます。

「令和」の時代がヒートポンプ技術による「熱リサイクル」の普及と、当センターが発信する様々なエレクトロヒート技術がグローバルに展開される時代となることを大いに期待しています。

(すずき そう) 三菱電機株式会社 執行役員 リビング・デジタルメディア事業本部 副事業本部長